

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号
管理機関名 福井県教育委員会
代表者名 教育長 豊北 欽一

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

2021年4月1日（契約締結日） ～ 2022年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 福井県立三国高等学校
学校長名 上山 康一郎
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

「あったらいいね」をカタチにする！
～ シビックプライドを持ったコミュニティデザイナーを育てる ～

4 研究開発概要

本校では、令和2年度からの新教育目標を「高い志を持って自律的に行動し、地域や社会の発展に貢献できる人を育成する」と定めた。これに基づき、地域との協働による高等学校教育改革推進事業においては、「地域とともにある学校」として、地域にある資源を活用して地域活性化に資するプロジェクトを地域人材と協働で実施することを通して、当事者意識を持って地域の未来を創造することのできる人材を育成する実践的な探究学習のためのカリキュラムを開発する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

※学校設定科目は令和3年度より開設

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
松田 淑子	日本大学生物資源科学部諸課程・教授	学校教育、探究学習
大森 昭生	共愛学園前橋国際大学・学長	学校教育、地域協働プログラム
川元 利夫	坂井市教育委員会・教育長	関係行政機関
峠岡 伸行	福井大学監事	企業支援、人材育成

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
福井大学国際地域学部	岡崎 英一（学部長）
福井大学地域創生推進本部	末 信一郎（本部長）
福井工業大学	掛下 友行（学長）
仁愛女子短期大学生活科学学科	禿 正宣（学長）
坂井市議会	古屋 信二（議長）
坂井市総合政策部企画情報課	三上 寛司（課長）
あわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS☆）	佐々木 康男（会長・あわら市長）
アーバンデザインセンター坂井（UDCS）	土井 祥子（チーフディレクター）
みくに地区まちづくり協議会	高森 重利（会長）
地域企業（IIOプロデュース株式会社 他）	伊藤 俊輔（IIO代表取締役社長）他
県外高等学校	鈴木 康之（静岡県立熱海高等学校長）
福井県内課題解決型学習モデル開発事業校	浅井 裕規（福井県立鯖江高等学校長）
坂井市内各中学校	荒川 誠（あわら市金津中学校長）
一般社団法人BEAU	小原 涼（代表理事）
三国高校同窓会	大和 久米登（同窓会長）
三国高校PTA	栗原 泰道（PTA会長）

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	石川 一郎	聖ドミニコ学園・カリキュラムマネージャー	雇用関係なし
地域協働学習支援員	浜田 剛	UDCSサブディレクター	雇用関係あり
地域協働学習支援員	澤崎 敏文	仁愛女子短期大学・准教授	雇用関係なし
地域協働学習支援員	中野 圭昌	福井銀行三国支店・支店長	雇用関係なし

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程									
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会							1回			

(2) 実績の説明

- ・継続的な取組を行うための教員の人事面の配慮として、加配の計画

- ・運営指導委員会の運営および指導・助言
- ・地域人材の継続的な連携の支援および3者相互連携の強化
- ・三国高校とアーバンデザインセンター坂井（UDCS）の間で相互連携協定締結

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コミュニティーデザイナー認定											1回	
総合探究発表会								2回	1回		1回	
学校設定科目	2回	1回	2回			1回		2回				
地域探究同好会 ワクワク未来考場	1回	2回	5回	3回	6回		4回	1回			1回	1回
教科探究学習	1回						2回					

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

(ア) コミュニティーデザイナーの認定

本校では生徒が三国という地域の住民としての意識を持って、地域の未来を創造することのできる実践的な探究学習に取り組むことで、この地域の将来の地域人材として活躍するという意識を持ったコミュニティーデザイナーの資格認定制度の開発に取り組んだ。今年度は、資格認定を抜本的に見直し、3年生のみを対象とし、ルーブリックを基にして認定した。

(イ) 総合探究発表会

総合的な探究の時間での各学年の取り組みを「三高地域魅力化プロジェクト」という名称で行っている。

1年生では6月中旬にあわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS☆）の協力を頂き、生徒の職業意識を深める催しを行った。また、三国町内の空き家活用プロジェクトを企画立案し、2学期末に実際の空き家を使って地域住民に活用方法を紹介する活動に取り組んだ。今年度も11月上旬にコンソーシアム団体のアーバンデザインセンター坂井（UDCS）とあわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS☆）・仁愛女子短期大学・福井銀行の参加をいただき、生徒の考えた空き家活用アイデアコンペを実施した。また、12月中旬には4クラスがそれぞれ1つの空き家を使い、自分たちの考えた活用方法を実践した。

2年生では地域の様々な問題について探究し、問題の解決方法を地元公共団体に提言する取り組みを行った。今年度は9、10月には坂井市役所職員からアドバイス、及びブラッシュアップ、11月には中間発表会を実施し総括のアドバイスを受けた。また、2月は坂井市議会議員に参加いただき、本番の発表会をコロナ感染症

の影響で、オンラインで実施した。

3年生では2年次までのプロジェクトの成果を研究レポートにまとめた。

(ウ) 学校設定科目「三国の文化資源探究」について

2年生Ⅱ系列文系の2クラスの生徒が、三国地域の様々な分野の文化資源について、講演や見学、体験を通して探究学習に取り組んだ。

4月は「三国の伝統文化」の分野で、三国祭について三国神社の宮司や地域の人から講演を聞いた。6月には「三国町の食・物産」の分野で、三国の特産である三里浜のらっきょう製造工場を見学した。雄島の海女さんからはもみわかめの加工方法を学んだ。9月には「三国の寺院・古墳・建築物等」の分野で、5班に分かれて三国の歴史的遺産である岸名家・瀧谷寺・魚志楼・大湊神社・三国突堤を見学に行った。それぞれ、地域の人から説明を受け、インタビューをした。11月には「三国の作家や芸術家」の分野で、ジャンクアートの巨匠である小野忠弘氏についての講演を聞き、実際に美術館にも訪れ、作品を鑑賞した。また、三国町出身の音楽家やナレーターを招き、三好達治の詩の鑑賞を交えて講演を聞いた。12月には「北前船交易・寄港地」の分野で、事前学習を踏まえ、地域の専門家による講演を聞き、北前船について深く学んだ。

(エ) 地域探究同好会（ワクワク未来考場の活動）

昨年度から地域との協働活動をする生徒の組織として地域探究同好会「地究」を設立し、ワクワク未来考場として活動を行っている。今年は、雄島まちづくり協議会だけでなく、みくにまちづくり協議会の協力も得て、いろいろな行事を行った。

5月には三国の伝統の三国祭の山車を曳くボランティアに参加した。6月と8月、10月は少数だが、三国町の汐見公園の芝桜の除草ボランティアに参加した。6月には本校の校歌を作詞した三好達治の草稿が見つかったということで、福井県ふるさと文学館に見学に行き学芸員から説明を受けた。7月と8月は空き家の吉野家の庭の整備を行った。吉野家をリフォームした様子を12月の1年生の空き家プロジェクトの発表会の時に地域の人に見てもらった。7月から8月にかけて昨年度も行った「海のおくり物」の高校生企画を実施しようと4回にわたって会議をしたが新型コロナウイルスの影響で中止になってしまった。10月には福井工業大学の学生と「灯りのしるべ」を実施しようとしたがこれも新型コロナウイルスの影響等で中止になった。三国町の様々な遺産を巡る歴史散策にも参加した。11月にはエッセル坂の落ち葉をきれいにするボランティアに参加した。2月には福井大学ラウンドテーブルに参加し地域探究同好会の活動についてオンラインで発表した。3月には坂井市主催の「グルメ to go コンテスト」に調理部とともに参加し、地域の特産を活かした食べ物を提供する予定である。

(オ) 教科探究学習

家庭科による「三国の伝統文化（刺し子）」の授業を、4月に3年文Ⅱ系列の服飾文化選択者に対して実施した。

10月に越前松島水族館館長による「海洋生物の調査保護」の講義授業と水族館の実地調査を3年理系生物選択者に対して実施した。

(カ) 学校訪問（先進地見学）

11月に本校の教諭2名が地域魅力化型の指定校である兵庫県の生野高校と豊岡高校を訪問し、両校の特色のある取り組みを学んだ。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

（ア）各教科・科目

地域人材を活用した授業を各教科の授業で取り組んだ。

（イ）三高地域魅力化プロジェクト

- ・ 1年次に総合的な探究の時間において、三国の地域課題を学ぶ活動を通して得た知識を活かして、三国の空き家活用を実践する取り組みを行った。
- ・ 2年次に総合的な探究の時間において、地域の様々な課題について、コンソーシアム団体の協力を得ながら提言案をまとめ、坂井市市議会議員に提言案を説明した。

（ウ）三国地域学

令和3年度より2年生から段階的に学校設定科目「三国地域学」を開設し、各科目との関連を深めた。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・ 令和4年度には2・3年生に学校設定科目「三国の文化資源探究」に加え、学校設定科目「三国の環境資源探究」を行い理系教科、科目を横断した探究的な学びを進める。

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメント推進体制

（ア）地域協働プロジェクト推進室

校長、教頭、教務主任および事務局6名の推進室を設置する。

（イ）コンソーシアム団体との連携

推進室が総合的な探究の時間の企画、令和3年度からの学校設定科目の企画開発、地域探究同好会の活動計画の立案および地域協働学習実施支援員と協力して、各コンソーシアム団体との連絡調整を行う。

⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

（ア）三高地域魅力化プロジェクト

各学年会の教員が中心になって運営し、それぞれの事業でそれぞれのコンソーシアム団体と連携協働し、プロジェクトを推進した。

（イ）地域探究同好会

担当教員2名で拠点となる空き家を活用し、地域住民との交流事業を推進した。

⑥カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて

（ア）カリキュラム開発等専門家

令和3年度から実施している三国地域学の科目の一つである「三国の文化資源探究」及び令和4年度に実施する「三国の環境資源探究」について、実施方法や各教科の横断的な学習の進め方についてアドバイスを受ける。

（イ）地域協働学習実施支援員

三高地域魅力化プロジェクトでの1年生の「空き家活用プロジェクト」や2年生

の「坂井市の課題解決の提言」に関して、各コンソーシアム団体との連絡調整を行う。

- ⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
- (ア) 教員研修会
外部有識者（運営指導委員、カリキュラム開発専門家）による総合探究の意義や、カリキュラムマネジメントの研修会を実施した。
- (イ) 職員協議会
地域協働プロジェクト推進室会議を定期的に行い、進捗状況の共有を行う。また、職員協議会で取り組みの進捗状況を報告し、取り組みの共有し課題を把握した。
- ⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- (ア) 三高地域魅力化プロジェクト
1 年生は東京都市大学建築都市デザイン学部およびアーバンデザインセンター坂井（UDCS）との協働を中心に事業を推進した。
2 年生は東京都市大学建築都市デザイン学部、福井大学地域創生推進本部、福井工業大学環境情報学部および坂井市役所との協働によって事業を推進した。
3 年生は研究レポートのまとめるため、レポート作成の方法を学んだ。
- (イ) 三国地域学
今年度から実施しており、カリキュラム開発専門家のアドバイスを受けて、地元企業や地元関係団体と連携している。
- ⑨運営指導委員会等、取組に対する指導助言等に関する専門家からの支援について
今年度はコミュニティーデザイナーの資格認定について抜本的に考え方を変え、当初の計画より目標設定シートの割合を変更したが、その認定方法について運営委員会から助言を受けた。その助言を基に、本校の教育目標である目指す人間像についてのルーブリックをつくり、3 年生全員に対して1 月に振り返りを実施し、その資料を基に教職員が協議をして認定を行った。
- ⑩類型毎の趣旨に応じた取組について（令和3 年度より）
- (ア) 三国の文化資源探究
国語科、地歴公民科、英語科、芸術科、家庭科の教員が協力し、三国の伝統・文化・文学・芸術・歴史・食文化等について探究学習を実施した。
- (イ) 三国の環境資源探究
理科、数学科、体育科の教員が協力し、三国の海の保全・ごみ問題・海洋生物・エネルギー生産・浄水処理等について探究学習の準備を進めた。
- ⑪成果の普及方法・実績について
- (ア) 研究報告書
令和3 年度の研究開発実践について研究報告書を作成し、関係のコンソーシアム

団体や協力者に配布する。

(イ) 三高地域魅力化プロジェクト報告書

2年生で実施した「坂井市の課題解決の提言」について、グループ別の提言書を研究レポートとしてまとめた報告書を発行する。また、生徒や関係のコンソーシアム団体の協力者に配布する。

(ウ) 広報活動

学校のホームページに様々な活動を掲載し発信した。また広報誌「三高NEWS」を発行し、地元中学校に配布した。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 高校魅力化評価システムより

高校魅力化評価システムのアンケートの「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」という肯定的回答をした割合から見た本校の概要

①学習活動（明示的なカリキュラム）

全体としては他地域に比べて割合が高く、しっかりとした探究活動ができているものと思われる。協働性に関わる学習活動の中で、「活動、学習活動について生徒同士、大人と話し合う」という質問に関して昨年度よりも低く、他地域に比べても若干（2%程度）低い。反対に「社会性に関わる学習活動地域の魅力や資源・地域の問題の解決法について考える」という質問に関しては他地域に比べてかなり（20%程度）高い。学年で見ると今年の1年生は昨年度の1年生よりやや低く、2・3年生はそれぞれの昨年度の2・3年生より高くなっている傾向がある。

②学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）

全体として他地域よりも若干（1～3%程度）低くでている。大人に関しても昨年度より少し（4～8%程度）低くでている。特に大人の教職員に関して、「自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある」・「立場や役割を超えて協働する機会がある」の質問に関して、昨年度より12%程度低くでている。コロナ感染症の影響もあるかもしれないが、教職員が閉塞感を持っている可能性がある。生徒は、社会性に関わる学習環境の「地域の人や課題にじかに触れる機会がある」「地域を自分の視点で考える機会がある」の質問に関してはかなり（9%程度）高くなっている。今年から学校設定科目「三国の文化資源探究」を実施しているが、その影響も考えられる。

③生徒の自己認識（資質・能力の主観的な認識）

全体としては昨年並みである。学年で見ると①の学習活動と同じで、今年の1年生は昨年度の1年生よりやや低く、2・3年生はそれぞれ昨年度の2・3年生より高くなっている傾向がある。主体性に関わる自己認識では1年生は低いが、3年生は高くなっている。1年生全体として、自己肯定感が低く、自信を持ってない生徒が多い様子が分かる。

④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）

全体としては昨年並みである。この項目に関しても、学年では①の学習活動、③の生徒の自己認識の項目と同じで、今年の1年生は昨年度の1年生よりやや低く。2・3年生はそれぞれ昨年度の2・3年生より高くなっている傾向がある。「地域の行事やボランティア

ア活動に参加した」がかなり（10%程度）上昇している。学校全体として地域のボランティアに対する呼びかけの機会が増したからかもしれない。

（2）目標設定シート

目標設定シートに関する項目については、2月に本校独自のアンケートを実施し、以下の項目について分析を行った。

①本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

（ア）「三国高校コミュニティデザイナー」等の認定を受けた生徒の割合を最終年次30%とする。

三国高校では引き続き、総合探究活動として、1年生は三国の空き家活用に取り組んでいる。また、2年生は坂井市の課題解決の提言をする取り組みを行っている。今年度はコミュニティーデザイナーの資格認定について抜本的に考え方を変え、当初の計画より目標設定シートの割合を変更したが、その認定方法について運営指導委員会から助言を受けた。自己評価をもっと工夫して生徒自身が「自分は積極的に探究活動に取り組んできた」と考える生徒に与える資格にするべきだという助言をいただいた。その助言を基に、本校の教育目標である目指す人間像「究める・挑む・結ぶ・愛する」に関するループリックをつくり、3年生全員に対して1月に振り返りを実施し、その資料を教職員が協議をして3年生の中から認定を行った。新たに認定を受けた3年生は17名であった。昨年19名の生徒が認定をされているので計36名が認定を受けたことになる。割合は、3年生の生徒数に対して24%で3年度の目標20%を達成した。コミュニティーデザイナーの資格認定は運営指導委員会の中でも様々な議論があった。今後、議論を深めて資格認定の条件を研究していく必要がある。

（イ）就職志望者のうち県内に就職する生徒の割合を95%以上、進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合を80%以上とする。

就職を希望している生徒のうち、福井県で就職したいと思っている生徒と3年生で福井県の会社または地方公共団体に就職の内定をもらっている割合は、89%で3年度の目標（90%）は惜しくも達成できなかった。割合としては昨年度と全く同じである。1年生の就職希望者は10名で、そのうち福井県で就職したいと考えている生徒は8名で割合は80%である。2年生の就職希望者は17名でそのうち福井県で就職したいと思っている生徒は16名で割合は94%である。3年生の就職希望者は28名でそのうち福井県で就職が決定している生徒は25名であり、割合は89%であった。大学・短大・専門学校などの進学志望者のうち将来県内での就職を希望する生徒の割合は62%で3年度の目標（70%）を達成できなかった。しかし、昨年度が63%であったので、割合としては昨年度とほぼ同じある。1年生の福井県への就職希望の割合がかなり低い。1年生の進学希望者は83名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は44名で割合は53%である。2年生の進学希望者は99名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は69名で割合は70%である。3年生の進学希望者は114名で、そのうち将来は福井県で就職したいと思っている生徒は71名で割合は63%である。

（ウ）アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合を90%とする。

アンケートで「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は88%で

3年度の目標（80％）を達成している。昨年度の割合82％よりかなり高くなっている。1年生で「ふるさとに対する愛着が深まった」と回答する生徒の割合は89％、2年生では85％、3年生では90％であった。

②地域人材を育成する高校としての活動指標

(ア) 三高地域魅力化プロジェクトの実施回数を最終年次20回とする。

3年度目標 15回

1、2年ともにプロジェクトを進めるにあたりコンソーシアム関係者の協力をいただくのにオンライン形式での講義やアドバイスを受ける機会が多かった。1年生ではオンライン講義2回と町歩き1回、アズASとの会1回、マインドマップ1回、アイデアコンペ1回、空き家活用プロジェクト本番1回を実施、2年生ではガイダンス講義1回とSDGs1回、先行事例研究1回、3年生から2年生への研究発表会1回、中間発表会1回、本番発表会1回を実施した。合計13回で目標を達成できなかった。

(イ) 県内外における合同発表会・研究報告会等への参加回数を最終年次8回とする。

3年度目標 6回

今年はコロナ感染症の影響で今年も訪問は計画通り実施できなかった。生徒の発表会参加が1回、教員のみが参加した発表会が県内・県外を含め3回で目標を達成できなかった。

③地域人材を育成する地域としての活動指標

(ア) 三高地域魅力化プロジェクトや地域における活動に参画する外部人材の延べ人数を最終年100人とする。

3年度目標 75人

- ・三高地域魅力化プロジェクト・・・（1年）延べ19名 （2年）延べ41名
- ・学校設定科目・・・延べ22名
- ・教科探究学習・・・（理科）3名（家庭科）2名
- ・地域探究同好会・・・19名

合計延べ人数106名で目標を上回った。

<添付資料>目標設定シート （別紙）

1.2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 三国高校コミュニティーデザイナーの資格認定

今後も3年生に対するルーブリックの内容を精査し、認定条件を地域協働プロジェクト推進室と外部関係者や生徒の代表が議論し、客観性を持ち多くの生徒が資格認定できる制度として構築していく必要がある。また、認定の時期を9月中にし、認定結果が就職や進学のための調査書等に反映できるようにする。

(2) 三高地域魅力化プロジェクト

3年度の発表会についても、1年生では11月の空き家活用プロジェクトのアイデアコンペ大会や12月の空き家活用プロジェクト本番を実施し、2年生は11月の中間発表会、2月の本番発表会で外部の関係者の前で発表を行った。また、地域探究同好会や家庭クラブ、有志チーム（プレゼン甲子園）なども機会を捉えて発表に臨んだ。しかし、生徒にとっては発表の機会が質・量ともにまだ少ない。来年度はより多くの生徒により頻繁に人

前での発表の機会を作る必要がある。

(3) 学校設定科目

4年度から「三国の文化資源探究」に加え「三国の環境資源探究」が実施される。2・3年生の多くが学校外の地域に出て体験や実験を実施する予定で、授業の時間割、教職員の配置がかなり難しくなる。また、生徒、教職員の旅費も大幅に大きくなると考えられる。

(4) 地域探究同好会

様々な地域の方とのイベント事業を行うことができ、地域との交流活動が深まってきているが、活動の拠点となる空き家の「吉野家」は、今年度も修繕することに重点が置かれていた。来年度からは吉野家を利用した地域の人との交流事業を考えていきたい。

【担当者】

担当課	福井県教育庁高校教育課	T E L	0776-20-0570
氏 名	角正 康弘	F A X	0776-20-0669
職 名	指導主事	e-mail	y-kakushiyou- ch@pref.fukui.lg.jp